

木造に関する知識や技術的裏づけを持たず、図面だけ描いた「自由な設計」を試みる人が多すぎます。本物の木造建築が出来ていくためには、本物の技術者が増えていかなければいけません(稲山正弘)。建て方中に台風(最大瞬間風速55メートル)に遭いましたが、被害は一切なく、金物を一切使わない手刻みによる仕口でも、木橋が台風に耐え得ることが見事に立証されました(岡村仁)。私が木造を専門とする理由の一つに、外材や人工林で荒れ果てた日本の山林の現状を少しでも改善したいという思いがあります。構造設計者はあまりにも山の問題に無関心すぎます(田原賢)。



特集 | 進化する木造建築

腰原幹雄(構造)・安井昇(防災)＝「法的、技術的に木造多層問題はクリアしている」

構造の最前線から＝稲山正弘・岡村仁・田原賢

高松伸＝「公共建築から木造都市を創造しよう」

「木造建築は受難時代を終え、復権する」＝内田祥哉

論評

おひとりさま仕様の
リフォームプラン——上野千鶴子

シングル男性向けのデザイナーズ建築を見るたびに思うのは、これって、転売するときにたいへんだろうな、ということ。建築は一生ものではなくなった。いずれは中古市場に投入して住み替えるとしたら、たぶん個人的なだけ、大きなゴミになる。



モダンリズム建築の
メッセージ④

歌舞伎座
——松隈洋

美しき構造設計の世界
——梅沢良三

建築と政治

東京中央郵便局保存問題は
政治決着で終わりか?——南一誠

オビエソンの視線

駅のホーム柵の設置を急げ
——高田昭治

キョート*
ダンメン
ロシュツ 吉永健一

